

研究計画書

ゼミ名	高ゼミ II	チーム名	令和留年組
タイトル	人の行動が AI に予測される日		
テーマ群	g)その他		
メンバー			
研究計画内容	<p><b>[研究の背景と目標]</b> 現代では、AI 技術の発展が著しく、ビジネスをする上で人間の感情をデータ分析するのは当たり前と呼ばれる時代が訪れつつある。表情分析の技術は、音声・映像認識に続き、人間の感情認識の分野においてもその性能は十分に実用に耐えるレベルにまで向上し、既に様々な業界への導入が進んでいる。最近では、日銀総裁の会見動画を人工知能技術、表情認識アルゴリズムを用いて、感情を指数化し、それらの変化を見ることで、金融政策への示唆を得ることを試みるという研究があった。その結果、人の行動は表情に表れていることを示し、表情と人間の行動に相関関係があることがわかった。とはいえ、本当に表情と行動にこのような相関関係があるのだろうか。私たちはこの疑問を解決するために、表情分析と行動経済をテーマに研究を行うことにした。</p> <p><b>[研究内容]</b> 私たちは日常で様々な表情をするが、意識的に表情を変えることは少ない。人は見聞きしたものやコミュニケーションを通じて、嬉しさ、悲しさ、怒りといった感情を抱く。それらは表情筋を動かし、顔に表情を作るため、感情と表情は密接に関わっている。そこで私達は AWS の機械学習 API を用いて、表情から 8 つの感情を取得し、表情と人間の行動の相関を研究し、日銀総裁の先行研究のような感情と行動に相関があるのかを検証する。</p> <p><b>[期待される効果]</b> AI の感情認識技術はモバイルアプリやゲーム、教育や医療の現場、自動車、マーケティング・リサーチなどのさまざまな業界で活用され、その効果が実証され始めており、カーナビや運転支援システムなどに感情認識 AI を組み込めば、安全性向上や、対話型のインターフェイスなどを備えた快適なドライブ環境を構築することも可能だろう。感情をデジタル化することによって、すべてのテクノロジーは心を持つことができ、私たちの人生はより豊かなものへと発展すると考える。</p>		